

五分館だより

第9号
豊丘村公民館
第五分館
編集 社会部
印刷 龍共印刷(株)

堀越の今日
H2.5.1現在
戸数 96戸
人口 431人

将来を語り合う 研究委員会発足する

区の委員会に於て、区興しを何とかしなければ、と云う意見が提案され、総会で予算が承認されました。

そして31名の研究委員が委嘱され初会合が4月12日に開かれ、今後の研究は分科会方式で行なわれます。

この堀越においては、先輩諸氏のため努力の積み重ねによりまして、苦しいながらも順調な発展を見てきました。

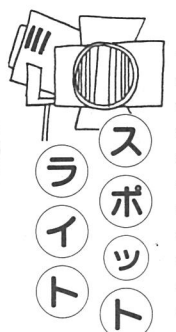
その姿は、公園、道路、観光などとして表われておりますが、さらなる発展を求めて『区づくり基本構想』の研究が、いよいよ発足いたしました。その目的については『五分館だより』第八号に掲載されておりますところの『区長抱負』の通りであります。

はるか遠い時代に思えておりました二十一世紀が目の前となった此の時、この堀越がこのままの姿を維持して行く事が出来るかは、

広域農道を通ってみよう

山の中に二車線の道路が

広域農道が、黒谷線から長沢山田線までの、短い区間ですが完成しました。みなさんは、もう通ってみたいですか。まだ通ってない



スポーツ
ライト



久保田さと子さん

さと子さんは、久保田正司さんの長女で、昭和四十一年六月二十二日生まれの二十三才。

勤め先は、松川町のNSKマイクプロレクション組立課に所属しています。趣味は読書とスキー、休日はドライブ、今後はテニスや沖縄旅行にもチャレンジしたいと意欲的です。



西元 ゆかりさん

気になる結婚は三十才までにとのこと。役員になっての一言は、「頑張りますのでよろしくお願ひします」とのお答えとても素直でかわいらしいお嬢さんです。

ゆかりさんは西元順三さんの娘さんで、昭和四十五年生まれの二十才。今年成人式を済ませたばかりの初

なかなか分かりません。しかしながら、此の地に住む者として、よりよい堀越を創り上げてゆく心と夢は持ち続けて行かなければならないと思えます。それには、此の研究会が委員だけのものではなく、住民全体のものとして活動して行かなければなりません。その為にも折に触れ、此の事を話題にして、来年十二月



利用者が多い広域農道

初しいお嬢さんです。勤め先は興亜電気で三年目を迎え、仕事も充実して来た所です。月、水、金と残業で忙しい中、今は社内バレーで頑張っています。趣味は音楽鑑賞で、特にポップスが好きだそうです。高校の友達は今皆都会へ行ってしまっていて、少し寂しいけれど、今は日曜日に会社の友達とショッピングに出掛けるのが楽しみとか。若い感覚で活躍してくれる事を期待します。

友達にこの広域農道のことを聞いてみましたが、まだ通れることを知らなかったり「あんな所に二車線の道を通して、利用する人はあまりいないんじゃないか。」と言う人もいました。この道を利用した人に聞く「綺麗な道で、走っていて

研究委員会 分科会の構成

- ◆ 観光・産業 ◆
 - ◎ 長 福島信彦、◎ 副 武田幸義、林 惇、田島悦男、宮下正美
 - ◎ 小 小椋茂人、宮下音蔵、田島康嘉、小椋正敏、松村ミチエ、武田美保子

- ◆ 区政の研究 ◆
 - ◎ 長 越野繁男、◎ 副 越野薫、武田勝、平晋、米山尚武、小椋正紀、日下部勝次、北林弘、三沢三保子、米山喜美子
- ◆ 環境・文化 ◆
 - ◎ 長 武田久、◎ 副 菅沼明人、越野渡、西元敏明、三沢勝司
 - ◎ 久 久保田聖司、森脇正義、宮下勝美、武田正雄、松下美恵

の答申を待ちたいと思えます。

評判はいいようです。時間がなかったり、遠回りになってなかなか通る機会がないと思いますが、是非一度通ってみて下さい。また、距離も短いので、歩いてみるのもいいと思います。

いままで以上に 小・中学生の間をより深く

昨年度行われた育成会中心の行事は、大きく分けて春・夏休みの二つがありました。

今までは、小学生と中学生とが一緒になって行事を行ったことがありませんでしたが、行事を一諸に行うことによって、小学生と中学生との間が一層深くなったと思えます。

特に、春休みの行事で行われた『送る会』では、小学生と中学生が一諸になって、お昼のご飯を作ったりして、今まで見られなかった小学生と中学生の接する

情景が見られて、良かったと思えます。

今回は、『送る会』という行事で小学生と中学生とが接する機会がありました。これが先どのよう小学生と中学生が接するかは分かりませんが、今まではどこかで接することが出来るように、中学生を中心として、盛り上げてもらいたいです。

最後に今以上に小学生と中学生との間をより一層深くしてもらいたいです。中学校卒業生 林 郁

まず若い人の 語らぬの場を

宮下 勝美

私はこの度の役員改選に於て第五分館長に選任されましたが、分館長と言う大役の資格など元来そなえていない私が、責任を持って行う事が出来るか不安であります。

幸い大ベテランの北林さんが主事として残り、役員の方々の中に経験豊富な人がおられる等、私の至らない点は皆さんに補なって頂きたいと思えます。そしてひとたび分館長を引き受けて頂きました以上、一大決心を

もって働きたいと思えます。第五分館は、区から沢山の予算を頂く事が出来、各部において事業の運営がス

ムーズに出来ることと思います。

農村の活性化、村おこしだと言っても、若い人が居なくてはだめだと思えます。第一歩として地区におられる若い人達が集まり、語らぬの出来る場を作る事から行なって行きたいと思えます。

今迄に先輩分館長さんの築き上げられて来られた第五分館を崩す事の無いよう頑張りたいと思えます。区民の皆さんの絶大な御支援と御協力をせつに御願いを申し上げます。挨拶といたします。

分館新役員

分館長 宮下 勝美 中宮
主事 北林 弘 駒沢
社会部長 武田 正雄 上垣外
副部長 松村 雄一 堂平
社会部員 宮下 茂 中宮
米山 喜美子 胡芝
菅沼 健司 駒沢
林 寿彦 中宮
西元 ゆかり 西宮
体育部長 堀本 明一 胡芝
副部長 堀本 丈文 中宮
〔本館役員〕

運営審議委員

体育部員 福島 昭治 西部
林 秀子 駒沢
〔本館図書部員〕
米山 利之 胡芝
武田 徹 東
久保田さと子 駒沢

委員長 西元 敏計 西部
委員 福島 信彦 西部
越野 薫 中宮
松村 勝堂平
村審議委員

青少年育成会 新役員

会長 宮下 勝美
事務 北林 弘
中学校会長 堀本 昌江
副会長 宮下 智恵
小学校会長 西元 敏明
校外指 福島みよ子
副会長 三沢三保子
校外指 西元美津代
保育園会長 小椋 正紀
副会長 越野ゆみ子

堀越青少年育成会 平成元年度決算及び平成2年度予算

<収入の部>

	平成元年度決算額	平成二年度予算額
前期繰越し金	4,466	3,485
堀越区補助金	5,000	5,000
村補助金	1,990	1,000
預金利息	159	
合計	11,472	9,485

<支出の部>

	平成元年度決算額	平成二年度予算額
子供夏祭り	25,392	20,000
おやす作り	1,835	3,000
スケート場謝礼	5,000	5,000
もちつき大会	5,000	5,000
お別れ会	24,363	20,000
会議費	8,491	
親の勉強会		7,000
遊具の手入れ	9,785	3,485
合計	79,866	94,859

第五分館平成元年度決算及び平成2年度予算

項目	平成元年度決算額	備考	平成二年度予算額	備考
収入総額	1,148,192		936,573	
支出総額	1,041,619		936,573	
差し引き残金	106,573		0	

<収入の部>

前期繰越し金	35,930		106,573	
堀越区補助金	800,000		600,000	
本館・村補助金	216,900	分戸 180,000 99×200=19,800 村 17,100	210,000	分戸 180,000 99×200=19,800 村 10,200
本館事業助成	70,000	運動会、盆踊	20,000	
区社会委員会より	19,900	運動会、酒、花火代	—	
宮下商店より	5,000	運動会、寄附金	—	
預金利息	462		—	
合計	1,148,192		936,573	

<支出の部>

地域美化運動費	8,290	通年6回	3,000	ゴミ片付け 桜の手入れ等
農休日球技大会	7,132	7/30	8,000	7/29予定
納涼盆踊り大会	7,454	8/15	8,000	8/15予定
スポーツ大会費	27,524	ゲートボール大会他	3,000	地区内
文化・学習活動費	50,035	講演会、講習会他	7,000	講演会、講習会等
分館だより制作費	7,036	5号~8号	9,000	年4回予定
グループ活動助成	52,000	9グループ	7,000	各グループの活動に 助成する
区民大運動会	301,827	11/3	—	
各種大会参加費	52,971	盆球技大会他	8,000	本館及び、その他大 会参加
グループ発表	—		7,000	11/3上旬予定
備品購入費	61,995	物置、スピーカー他	3,000	
役員手当	228,000	分50,000主48,000 役10,000×13人	254,000	分主 51,000 49,000
会議・事務費	36,840	18回	5,000	役11,000×14= 154,000
予備	6,000	寿成会、婦人会 御祝儀	2,573	
合計	1,041,619		936,573	

黒谷箋

農作物の生産を大きく左右するものに各種の気象災害がある。その代表ともいえる凍霜害とヒョウ害が南信地区を襲った。このダブルパンチに被害の多い松川町のある二十世紀栽培農家は、向こう三年みやましいものは取れそうにないと木を切っていると聞いた。

まったく百姓はその一年の見通しがつかないものである。いま種を播いてもその作物が秋にちゃんと実るかどうか実はわからない。台風がきてりんごの実がみんな落ちてしまうかもしれないのだ。

ある農業大学の教諭が農業の近代化は終り今や暴落構造の一途をたどるだけとなり、相手産地の災害を待っているのが現代の農業だと説いた話を聞いた。寂しい事だが現実だ。

今や、美しい自然や空気の中で……というような聞いたふうな農業論では示しがつかなくなってきた。じゃあどうしよう。俺の世界は最高だと思える様なおもしろ農民がふえ、楽しめる農業を地域で築くなんて事だろうか、この暗いイメージの農業を救うのは大胆な発想と実行力しかないと思うのだが。(松村雄一)